



# 勝呂小だより

【学校教育目標】 心豊かに 美しく かしこく やさしく たくましく

令和8年2月27日 第12号 坂戸市立勝呂小学校 校長 臼井 健一

【目指す学校像】 「みんなの笑顔があふれる、心温まる学校」を目指して

「感謝の気持ち」を伝えよう ～ミラノ・コルティナオリンピック～ [2月のお話朝会 (校長講話) より]

今月、イタリアで行われた「ミラノ・コルティナオリンピック」では、日本から出場した選手が過去最高数のメダルを獲得するなど大活躍し、各種目の競技や演技で皆さんに感動を与えてくれました。

私はこうした大会等において、各競技や演技後に選手が話すインタビューに毎回注目しています。このインタビューの話には各選手のこれまでの思いが詰まっており、ためになる話もたくさん聴くことができます。その中で、スキージャンプノーマルヒルで銅メダルを獲得した「丸山 希 (まるやま のぞみ) 選手」とスノーボードビッグエアで銀メダルを獲得した「木俣 椋真 (きまた りょうま) 選手」の言葉を紹介します。

～ 丸山選手の言葉「私は自分のやりたいことに突っ走ってしまう性格なので、本当にいろんな人に迷惑をかけたと思うんですけど、それを受け入れてくださった皆さんに『感謝の気持ち』でいっぱいです」～

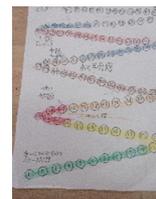
～ 木俣選手の言葉「自分だけじゃなくて、みんなも喜んでくれるというのが嬉しいです。特にずっとサポートしてくれた人たちが喜んでくれるのはすごく嬉しい。ぼくは、周りの人に恵まれているんです」～

この二人の言葉でともに共通しているキーワードは「感謝の気持ち」です。さて、皆さんが「感謝」したい人、しなければならぬ人には、どんな人たちがいますか。自分の家族、先生、友達、見守りの方々など思い浮かびますか。ほかにもたくさんいることでしょう。そんな「感謝の気持ち」を皆さんはどのようにして伝えていきますか。感謝の言葉としてすぐに思い浮かぶのは「ありがとう」だと思いますが、ほかにも「おはようございます」という言葉にも、『早くからいつもありがとう』という意味が込められています。ぜひ、ありがとう以外の言葉でも感謝を伝えていきましょう。そして、木俣選手の言葉にあるように、家族や仲間やお世話になっている人を喜ばせる行動でも、感謝の気持ちは表せます。どんな行動をしたら喜んでもらえるか考えて行動し、悲しませたり、困らせたりする行動はしないようにすることも大切です。

さあ、今日からいつでも周りの人たちに「感謝の気持ち」を表す行動や言葉を伝えていきましょう。

【あいさつをして、あいさつをして、あいさつをして、あいさつをして、あいさつをしていきましょう！】

今月、運営委員会の児童が「全校あいさつ運動」を展開しました。この運動は、運営委員の児童が毎朝、昇降口に立ち全校児童に元気の良いあいさつを届けてくれたり、あいさつのポイントカードを作成して「あいさつ名人（初級・中級・上級・名人）」に認定されてカードがもらえたりするなど児童が主体となって考えた取組です。私は、この運動により児童のあいさつの声がよりも大きくなったと感じています。今後も、このような意気込みが続いていくことを願っています。



## ～ 学校教育活動 保護者アンケート 」 [ 自由記述欄 回答：その2 ]

- (1) 給食着は各家庭で購入し、個人で使えるようにしたほうがよいと思います。
- 昨年度も同様の質問に回答いたしましたが、本年度も再度同様に回答させていただきます。
- 学校では、毎年度 市から配布される給食着を発達段階のサイズに合わせ、各学年に配当しております。ただし、個人持ちでの使用をご希望される場合は、その旨を学校までお申し出ください。そのうえで販売店をご紹介いたしますので、各自でご購入してのご使用をお願いいたします。
- (2) 水泳授業は、他校との兼ね合いもあるとは思いますが、実施時期をローテーションにしていただけでないでしょうか。
- 本校の実施会場である「北坂戸スイミングスクール」を使用する小中学校間において、各学校の児童生徒数や実情に合わせて2年ごとのローテーションを組んでおります（本年度2年目）。このローテーションにしたがい、本年度11月・12月のブロックで実施した本校は、来年度は1月・2月のブロックに移っての実施となります。ローテーションに基づいてのことですので、ご承知おきください。（なお、2月6日に各家庭にお渡しした文書にもその旨について記載しております）
- (3) 児童の安全確保の面から集団下校が望ましいのは理解できますが、仲良くすることが難しい関係のまま同じ下校班を続けていくのは児童にとってつらいことと感じています。
- このようなことでのトラブルも多く見られたこともあり、来年度4月から4年生以上は下校班ではない下校に変更することにいたしました（学年は問いません）。また、一人での下校とならないように指導をしてまいります。なお、児童数の少ない赤尾・島田、戸宮地区については、今年度と同様に複数学年でまとまった下校を続けていきます。（こちらも、2月6日に各家庭にお渡しした文書にもその旨について記載しております）
- (4) 「読み聞かせボランティア」をもっと増やしたいです。
- 読み聞かせボランティアの皆様には、いつも大変お世話になっております。読み聞かせボランティアは学校応援団の1つとして、おもに週1回月曜日の朝に子供たちへ絵本の読み聞かせをしていただいたり図書室内の飾りつけ等を行っていただいたりしております。メンバーは、保護者の方と地域ボランティアの方々と構成され、何年も前から活動しております。
- 保護者の方や地域の方で、一緒に参加していただける方は、随時大募集しておりますので、ご興味の方は本校（教頭宛て）までご連絡をぜひお待ちしております（☎049-281-0229）
- (5) 子供たちが持ち物を忘れると貸し借りが許されておらず、思いやりを感じません。はじくのではなく、お互いに助け合う、失敗しても大丈夫、という安心や信頼を日々学ぶ仲間同士で育むべきだと思います。
- 子供たちが、お互いを思いやり、助け合い、安心して学校生活を送れることは、とても大事なことであり、学校でも授業やその他の学校生活を通じて、そうした心を育てていくことに力を入れております。ただし、子供たち同士で貸し借りをすると、破損や紛失等のトラブルが起きることがよくあります。また、忘れ物をして友達に借りればいやと安易に考え、忘れ物に対する意識が低下しがちです。そのため、基本的に子供たち同士での貸し借りはさせておりません。子供たちには、忘れ物の貸し借り以外のことでお互いの助け合いや思いやりを大切にすることを育ませる指導を行っておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

(6) 持久走記録会について、個人の成果を実感できる時間走かもしれませんが、持久走大会から記録会に移行したメリットがわかりません。

→ 持久走自体は、教育課程には学習内容として示されておりません。しかしながら、子供たちの持久力（体力面・精神面）を高め、育てるための大事な機会として、次の目的で持久走記録会を設けております。

《 練習・記録会を通して 》

- ① 児童個々の能力に応じて、力いっぱい頑張る態度を育てる。 (教育目標：たくましくの具現化)
- ② 自己の体力に応じた体力の向上を図る。 (教育目標：かしこく・たくましくの具現化)
- ③ 友達と頑張り合うことによって、お互いに励まし合う態度を育てる (教育目標：やさしくの具現化)

中でも、特に下線部については、トラック内での記録会にすることで、全員の頑張りを走っている児童・応援している児童の双方で感じ取ることができ、異学年同士で応援し合うことで、お互いに励まし合う態度を育てています。また、苦手な子供たちも多くみられる中、他者との比較ではなく自己としての目標がわかりやすく、お互いに高め合える取組として、ご理解くださいますようお願いいたします。

(来年度は、水泳学習が1・2月に組まれている関係で、持久走記録会は12月に実施いたします)

(7) 幼稚園や保育園の先生方にも小学校に来ていただける機会があるといいなと思いました。卒園後の子供たちの成長した姿を見ていただけたら、先生方も子供たちも喜ぶと思います。

→ 先日、本校の1年生が「みのり保育園の園児たち」と交流授業を行いました。その際に、保育園の先生方にも1年生の様子を見ていただき大変喜んでもらえました。また、1年生も嬉しそうでした。

【 3 月 の 行 事 予 定 】

2日(月) 定時退勤ウィーク(～6日)	23日(月) 3学期 給食最終日、お別れ式
3日(火) 地域の方等への「感謝の会」(児童朝会) 教育相談日	卒業式前日準備(5年生：5日課) 1～4年生・6年生：4日課
5日(木) 委員会	24日(火) 卒業式(5・6年生)
10日(火) 賞状伝達朝会	1～4年生：臨時休業日
11日(水) スクールカウンセラー勤務日	25日(水) 3日課、一斉下校、6年生：臨時休業日
12日(木) 全校5日課	26日(木) 修了式、3日課、一斉下校 6年生：臨時休業日
13日(金) 1年生：4日課、2年生以上：5日課	27日(金) 春季休業日〔～4月7日(火)〕
17日(火) 全校4日課、卒業式予行	
18日(水) 全校4日課	
19日(木) 全校4日課	〈令和8年度 1学期〉
20日(金) 春分の日	4月8日(水) 始業式(午前)、入学式(午後)

【 自転車に乗る時は、自分を守る「ヘルメット」 】 未着用者ゼロを目指して

1. お子さんが、家から自転車で出かける際には、「ヘルメット」をかぶっているか確認をお願いします。
2. ご家庭の話題の中に、「なぜ、ヘルメットをかぶるべきか？」という会話があるとよいです。  
⇒ 自転車事故の死亡の原因のほとんどは「頭部の損傷」です。  
⇒ 自転車事故に遭った人のうち、大きなケガに至らなかったのはヘルメットをかぶっていた人です。
3. 時々しかかぶっていない児童も見られます。どこに行くときでも必ずかぶる習慣をつけましょう。